

## 令和7年度 学校教育自己診断まとめ

### 【回答率】

今年度(12/18現在)

	在籍数	生徒回答数		保護者回答数		教員回答数	
	人数	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1年生	203	182	89.7	89	43.8	63	100
2年生	192	160	83.3	80	41.7		
3年生	173	151	87.3	81	46.8		
合計	568	493	86.8	250	44.0		

昨年度(参考)

	在籍数	生徒回答数		保護者回答数		教員回答数	
	人数	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1年生	210	182	86.7	54	25.7	64	100
2年生	183	154	84.2	49	26.8		
3年生	157	137	87.3	38	24.2		
合計	550	473	86.0	141	25.6		

### 【はじめに】

学校教育自己診断の生徒の回収率は、昨年度に10%増加したが、今年度も多くの項目で好意的な回答結果を維持・向上することができた。実施形態は、昨年と同様LHRでの実施であったが、当日に欠席した生徒は、後日に回答してもらうなどして、担任が回収に尽力した結果が回答率の上昇に繋がっている。また、保護者の回収率の低下が昨年度の課題であったが、担任から生徒に対しての声かけをすることで大幅に回答率を増加させることができた。

### 【アンケートの変更点】

今年度の学校経営計画に、「計画的な休暇取得」(教員)の数値目標が新たに設定されたので、新たに教職員用のアンケートに「計画的に休暇を取得することができている。」の質問を追加した。  
生徒・保護者のアンケート内容についての変更はなく、昨年度と同様である。

【学校経営計画の評価指標に挙げた項目について】 ※右は昨年度

&lt;生徒対象&gt;

③「授業はわかりやすい」に対して、肯定的意見の80%以上の維持



1年生	2年生	3年生	合計
89.0	79.4	90.1	86.2

1年生	2年生	3年生	合計
83.5	93.5	87.6	88.0



④「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」に対して、肯定的意見の90%以上の維持



1年生	2年生	3年生	合計
94.5	89.4	94.0	92.7

1年生	2年生	3年生	合計
96.7	85.9	89.1	94.3



⑤「将来の進路や生き方について考える機会がある」に対して、肯定的意見の90%以上の維持



1年生	2年生	3年生	合計
90.1	91.3	94.7	91.9

1年生	2年生	3年生	合計
95.1	96.8	86.1	93.0



⑥「自分の考えや意見を伝える力がついたと感じる」に対して、肯定的意見の70%以上の維持



1年生	2年生	3年生	合計
75.3	71.9	82.8	76.5

1年生	2年生	3年生	合計
69.8	83.9	72.3	75.1



⑬「先生は悩みや相談に丁寧に対応してくれる」に対して、肯定的意見の80%以上をめざす。



1年生	2年生	3年生	合計
78.6	73.8	79.5	77.3

1年生	2年生	3年生	合計
72.0	81.9	68.6	74.3



⑯「校則や指導について、納得できる」に対しての肯定的意見の60%以上をめざす



1年生	2年生	3年生	合計
68.7	49.4	67.5	62.1

1年生	2年生	3年生	合計
54.4	63.9	44.6	54.6



⑰「学校行事や委員会活動、部活動に積極的に取り組んでいる」に対して、肯定的意見の70%以上の維持



1年生	2年生	3年生	合計
71.4	76.9	84.8	77.3

1年生	2年生	3年生	合計
80.2	78.1	70.8	76.8



⑱「学校行事に満足している」に対して、肯定的意見の80%以上の維持



1年生	2年生	3年生	合計
89.6	90.6	93.4	91.1

1年生	2年生	3年生	合計
93.4	93.5	84.7	90.9



⑱「自分からあいさつやお礼を言うことができる」に対して、肯定的意見の85%以上の維持

◎	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
	88.5	91.3	92.1	90.5	90.1	85.5	85.4	87.3



㉓「多文化共生が進んでいる」に対して、肯定的意見の80%以上の維持

◎	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
	84.1	78.8	88.7	83.8	85.7	81.9	81.0	83.1



㉔「エンパワメントスクールに来て良かった」に対して、肯定的意見の80%以上の維持

◎	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
	79.7	73.1	90.7	80.9	93.4	96.1	90.5	93.5



<保護者対象>

⑮「多文化共生が進んでいる」に対して、肯定的意見の80%以上の維持

△	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
	70.8	90.0	75.3	78.4	83.3	81.6	89.5	84.4



⑰「担任やその他の先生に相談しやすい」に対して、肯定的意見の65%以上の維持

◎	1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
	65.2	67.5	63.0	65.2	59.3	61.2	68.4	62.4



⑱「エンパワメントスクールに入学させて満足している」に対しての肯定的意見

1年生	2年生	3年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
84.3	87.5	81.5	84.4	83.3	83.7	92.1	85.8



<教職員対象>

③「今年度、ICT機器を活用し、授業を行った」に対して、肯定的意見の90%以上の維持

◎	肯定的意見	肯定的意見
	95.2	96.9



②「計画的に休暇を取得することができている」に対して、肯定的意見の70%以上をめざす

◎	肯定的意見	肯定的意見
	73.0	

新規追加

## ～結果と分析～

### <生徒対象>

- ⑬「先生は、悩みや相談に丁寧に対応してくれる」については、昨年度より増加したものの、目標の80%を達成することはできなかった。目標を達成するためには、これまで以上に生徒一人ひとりの家庭環境や特性を把握して、生徒と接する必要がある。また、業務の改善や削減を行い、教職員が余裕を持って、生徒や保護者と関わりをもつ時間を確保し、働ける環境を組織全体で考えていく必要もある。
- ⑯「校則や指導について、納得できる」については、肯定的な意見が昨年度よりも増加し、目標を達成することができた。しかし、まだ約4割の生徒が否定的な回答をしている。引き続き、指導する意義を丁寧に説明し、ルールや校則が自分たちのためにあり、自分たちを守ることに繋がると思えるような指導内容を考えていくことが課題である。
- ⑳「エンパワメントスクールに来て良かった」については、目標は達成したものの、大幅に下がってしまった。ルーツ生などの一部の比較的勉強が得意な生徒が増え、「学びなおし」の授業に物足りなさを感じている生徒が多くなったことが考えられる。入学前に、本校の特色を伝えることに、これまで以上に力を入れる必要がある。

### <保護者対象>

- ⑮「多文化共生が進んでいる」については、目標を維持することはできなかった。近年、外国にルーツをもつ生徒は年々増加しており、今後もその傾向が続くことが見込まれる。現在は一人ひとりに対してきめ細かな支援を行っているが、こうした支援を今後も継続していくためには、業務の見直しや改善を進めるとともに、生徒や保護者が安心し、満足できる支援体制を整えていく必要がある。

### <教職員対象>

- ㉑「計画的に休暇を取得することができている」については、今年度新たに質問項目を設けた。目標の数値を達成したので、今後も維持したい。一方で、17名の教員が、否定的意見と回答していることを忘れてはならない。同僚性をより意識することや、外部システムなどを使い業務の効率化を図り、すべての教職員が働きやすい環境を整える努力を、学校全体で考えていく必要がある。

【教育庁等の指示により、この数年間で追加した項目について】 右は昨年度

◆いじめについて

<生徒対象>

④「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」に対する肯定的意見

1年生	2年生	3年生	合計
80.2	67.5	77.5	75.3

1年生	2年生	3年生	合計
73.1	67.7	57.0	66.8



<保護者対象>

②「学校は、いじめについて真剣に対応してくれる」に対する肯定的意見

1年生	2年生	3年生	合計
55.1	52.5	46.9	51.6

1年生	2年生	3年生	合計
46.3	38.8	50.0	44.7



<教員対象>

③「生徒間のいじめや差別につながる行動については未然防止に努め、事象が起きた場合には丁寧にかつ迅速に対応している」に対する肯定的意見

肯定的意見
95.2

肯定的意見
93.8



◆学校へ行く楽しみについて

<生徒対象>

②「学校へ行くのは楽しい」に対する肯定的意見

1年生	2年生	3年生	合計
72.5	61.3	77.5	70.4

1年生	2年生	3年生	合計
69.8	69.7	67.8	68.8



<保護者対象>

④「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」に対する肯定的意見

1年生	2年生	3年生	合計
73.0	77.5	69.1	73.2

1年生	2年生	3年生	合計
79.6	77.5	73.6	77.3



## ～結果と分析～

### ◆いじめについて

#### <生徒対象>

- ⑭「先生は、いじめについて真剣に対応してくれる」については、肯定的な意見が大きく上がった。否定的な回答も5.4%（昨年度：7.6%）と年々下がっている。いじめや差別に対して教職員が常にアンテナを張り、丁寧に対応していることで生徒と教員の信頼関係が少しずつ大きくなっていることの表れだと分析する。

#### <保護者対象>

- ⑫「学校は、いじめについて真剣に対応してくれる」においても、生徒同様、肯定的な意見が多く見られた。否定的な意見は、7.2%（昨年度：13.5%、一昨年度：24.9%）と年々大きく下がっており、学校の対応について、保護者の理解を得られていると分析する。

### ◆学校へ行く楽しみについて

- この項目に関しては、生徒も保護者も例年と変わらない結果であったが、否定的な意見を回答している生徒がいることを我々教職員は忘れてはいけない。

## 令和7年度全体を通して

- 一昨年から、全体を通して高い評価を得られている。このことは学校側の取組みや指導方針が生徒や保護者に理解されていると考えられる。今年度、大きくポイントを下げてしまったのは、生徒対象の「エンパワメントスクールに来て良かった」の項目である。前述したが、「エンパワメントスクール（＝学びなおし）」に否定的な意見をもつ生徒が増えたということは、言い換えると「発展的・応用的な内容に取り組みたい」という学習意欲の高い生徒が増えたともいえる。こういった「自信をつけた」生徒が増えたことは喜ばしいことでもある。ただ、一方で勉強が苦手な「学びなおし」が必要な生徒も多くいるので、個別最適でバランスを考慮した授業内容や試験の難易度を検証し、工夫していく必要がある。